

夏休み衛生試験所こども体験学習会

(第1回、第2回)を開催して

梶原 一人¹⁾

1. はじめに

地方衛生研究所の業務は、当初試験検査が主体であったが、昭和51年に出された厚生事務次官通達では、「試験検査」、「調査研究」、「情報解析提供」、「研修指導」が衛生研究所の4本柱として、近年提唱され始めた。もともと市民や県民と直接つながりの少なかった衛生研究所にとって、近年海外研修生の受入れや海外技術派遣等の増加も含めて、「研修指導」の分野は新たな項目として注目されつつあり、市民等を対象として施設公開を実施する研究所が増加している^{1, 2)}。

福岡市は、平成9年度の開所をめざした保健環境研究所構想の中で、平成4年度よりその基本設計に着手した。この構想の中で、電子顕微鏡や大型GC-MS等の機器も仮庁舎の段階から整備されたことから、平成4年、5年に市内の小学生等を中心とした所内見学会を開催したところ、好評を博した。

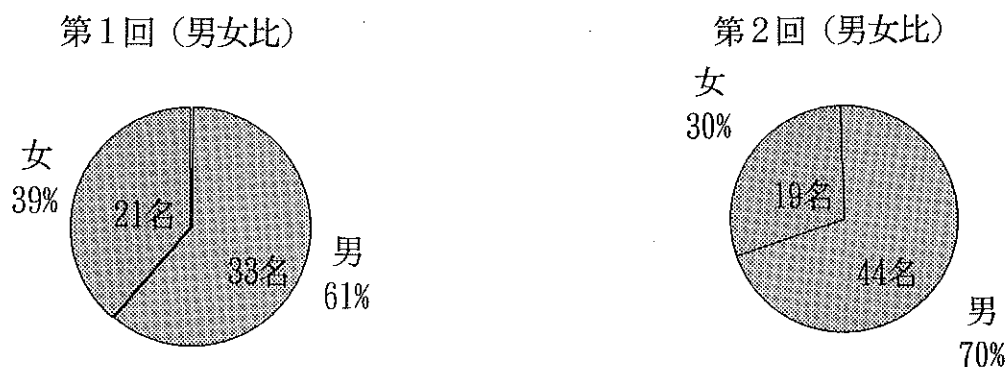
そこで、本市においても他県市で開催している施設公開の気運が高まり、平成6年度より小、中学生を対象とした「夏休みこども体験学習会」を企画、開催したので、その概要を報告する。

2. 学習会の概要

	第1回(平成6年度)	第2回(平成7年度)
開催日	平成6年7月27~28日各13:00~16:00	平成7年8月9日13:00~17:00
開催場所	衛生試験所実験室など	衛生試験所実験室など
参加者の年齢	9~15才	9~14才
参加人員	54名	63名
主な学習内容 (テーマ)	電子顕微鏡観察(昆虫, 花, 髪) 食品の簡単な検査(豆腐作り) 水の簡単な検査(pH, 底生生物) (同一内容を2日間にわたり実施)	手の細菌と食品中の細菌を見てみよう ミクロの世界をのぞいて見よう(電顕) コンニャクゼリーをとおして食品添加物を考える 目で見る水の検査(pH, 重金属バックテスト) におい, 空気の汚れを知る体験 水生生物とダニを顕微鏡で見よう

3. 参加者の内訳

(1) 男女比

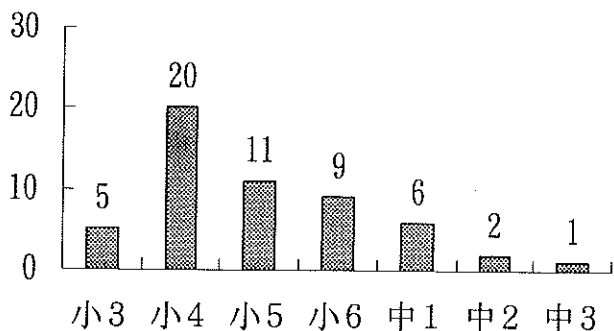


男女比は、男性の参加者が多く、特に第2回(平成7年度)はその傾向が強かった。

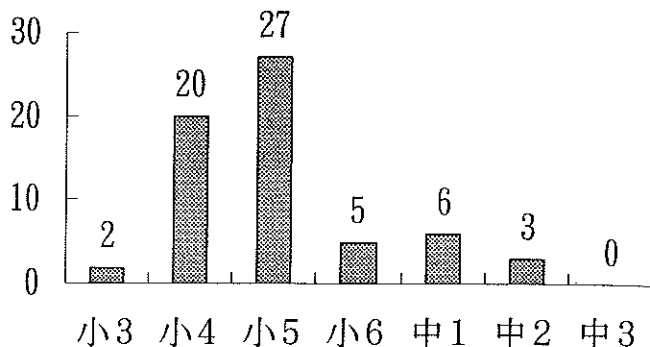
1. 福岡市衛生試験所 微生物課

(2) 学年別

第1回学年別参加人数(名)



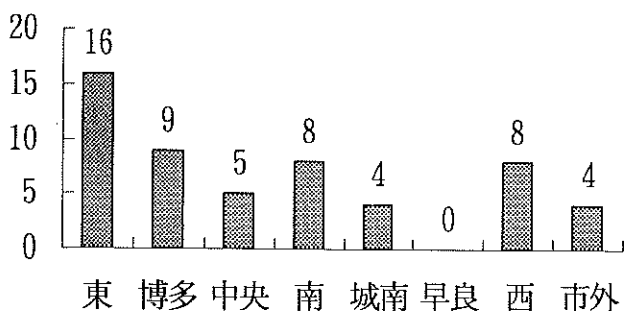
第2回学年別参加人数(名)



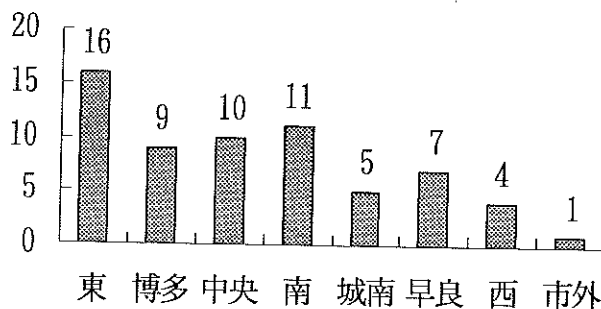
小学校4～5年生が、参加者の中心で、全体の75%を占めていた。7月下旬～8月上旬という開催時期の関係から、中学生の参加者は少なく、第1回、第2回とも9名と全体の14～17%にすぎなかった。

(3) 地域別

第1回地区別参加人数(名)



第2回地区別参加人数(名)



東区からの参加者が第1回、第2回とも多かった。他はそれほど差は認められなかったが、衛生試験所(仮庁舎)の所在地が博多区にあることから、交通の便等で、市の西南部からの参加者は少な目の傾向であった。

4. アンケートの結果

第1回、第2回とも学習会終了後に参加者にアンケートを書いてもらった。その結果を集計すると表のようになる。

なお、第1回と2回でアンケート調査項目に変更があり、「体験学習会を何で知ったか?」については、第2回に保護者のみにアンケートをとった。なお数値には、重複回答を含んでいる。

(1) 参加の動機

参加の動機は、「お父さんお母さんに勧められたから」というのが最も多く、半数以上を占めていた。次いで「自ら進んで参加」、「先生や友達に誘われた」の順だった。両年度とも広報が「市政だより」のみであったことから、父母が記事を見て子供に勧めたケースが多いと思われた。

(2) 学習時間

「ちょうどよい」との答えが最も多かったが、長す

ぎる、短すぎるとの意見もあり、一概には言えないが、小学生には、1回90分という学習時間は少し長すぎたかもしれない。

(3) 学習内容はおもしろかったか?

「とてもおもしろかった」「おもしろかった」がほとんどであったが、中に「つまらなかった」と回答した子供が若干存在した。また設定したコースによって、「とてもおもしろかった」と「おもしろかった」の比率が異なっていた。衛生研究所の仕事を子供に理解させることは難しいが、子供の立場にたって学習内容を考えた方がよいと思われる。

(4) 学習レベル

「ちょうどよかった」が最も多かったが、中には「やさしかった」や「むずかしかった」等の意見もみられた。

小学校3年～中学校3年と幅広い年齢層を対象としたため、学習レベルの設定に難しい面があった。今後

表1 アンケート集計結果

		第1回 (平成6年度)	第2回 (平成7年度)	計
アンケート回答数		54	76	130
参加の動機	自分からすすんで	9	14	23
	父母からすすめられて	36	36	72
	先生・友達のさそいで	5	12	17
	その他	4	1	5
学習時間	短すぎる	5	9	14
	ちょうどよい	39	49	88
	長すぎる	6	5	11
おもしろかったか?	とてもおもしろかった	37	45	82
	おもしろかった	13	18	31
	つまらなかった	2	0	2
内容・学習レベル	やさしかった	/	14	14
	ちょうどよかった		43	43
	むずかしかった		6	6
来年も参加したいか?	参加したい	13	39	52
	参加したくない	3	1	4
	わからない	38	23	61
開催時期の希望	7月下旬	32	26	58
	8月上旬	7	35	42
	8月中旬	8	7	15
	8月下旬	4	7	11
体験学習を何で知ったか? (保護者のみ)	市政だより	/	8	8
	市政だよりこども版		4	4
	友人知人から聞いて		3	3

第2回のみ保護者からもアンケートをとった。それぞれ重複回答を含む。

はコースごとにある程度対象年齢を絞り込んで実施する必要があると思われた。

(5) 来年の参加予定

来年も参加したいかの問いに対しては、「参加したい」が多かったが、半数以上は「わからない」と記載している。来年の体験学習の開催時期、内容が未定のため、回答できないものと思われた。

「参加したくない」が若干名見られ、この数値は「つまらなかった」の数と同じ傾向があった。

(6) 開催時期の希望

第1回7月27～28日、第2回8月9日と開催時期をずらして実施した。アンケートでは第1回では7月下旬、第2回では8月上旬と自分が参加した時期の希望が最も多かったが、総じて7月下旬～8月上旬の時期の希望が多いと思われる。ただし、中学生は8月中旬～下旬の希望がやや多かった。主たる対象者を小学生にするのか中学生にするのかで、開催時期を変えた方

がよいと思われる。

(7) 広報手段

第1回、第2回とも「市政だより」もしくは「市政だより子供版」に募集を掲載した。第2回の際、この学習会が開催されることを何で知ったかをアンケートで尋ねたところ、当然ながら「市政だより」等で知ったとの答えが多かった。今後は「市政だより」以外にも、新聞やミニコミ紙等の違った手段で広報できるよう配慮していきたい。

5. その他、反省点など

(1) 募集を第1回、第2回とも簡便に済むことから電話で受けたところ、募集開始日に早朝から電話が殺到し、混乱した。また電話でコースの希望を聞いたため統一性を欠き、抽選時に不公平感が残った。これを反省し、次回の第3回(平成8年度)からは往復はがきによる応募に変更している。

- (2) 体験学習は、できるだけ小人数で、機械や器具にさわられるような実習が理想的だと思われる。したがって実習は1回10人以下で、余裕をもった時間設定で行いたい。
- (3) 総じて体験学習者および保護者は、今回設定したテーマなどを通じ、衛生試験所の仕事を理解していただけたと感じている。アンケートにそのような内容が多数記載されていた。
- (4) 体験学習の予算化がなされていないことから、9年度以降については、正式に予算化が必要と思われる。

6. おわりに

平成6年度から開始した夏休み子ども体験学習会も、当初は試行錯誤で行っていたが、回を重ねるごとに内容が充実し、主催者側も学習会に慣れ、参加者の満足度も高くなってきている。

しかし、いざ学習会を開催するとなると、事前の企画から運営、実行、予算、広報報道など問題が山積しており、所内業務の一環であるとの認識や、実施要領の作成、

予算化などを早急に解決していかなければならない。

当所は、平成9年度に「福岡市保健環境研究所」へ移行し新庁舎への移転するが、ここでは常設の展示室が2室設けられ、保健環境分野の体験、学習を行う予定であるが、夏休み子ども体験学習会事業についても、今後継続発展させ、「市民に開かれた研究所」をめざして努力していきたい。

稿を終わるにあたり、この学習会の開催に際してご協力いただいた関係各位に深謝いたします。

参 考 文 献

- 1) 段木登美江, 他: 地方衛生研究所における施設公開の取り組みについて—アンケート調査の結果から—, 横浜市衛研年報, 33, 70~76, 1994
- 2) 札幌市衛生研究所: '93衛生研究所展—学んで遊ぼう衛研展!—, ぱぶりっくへるす, No.8, 6, 1993